

# 健康福祉委員会資料

## (病院局関係)

### 1 事業概要説明

資料1 平成25年度事業概要

資料2 川崎市病院事業の概要と今後の課題

#### (参考資料)

- ・川崎市立川崎病院パンフレット
- ・川崎市立井田病院パンフレット
- ・川崎市立多摩病院パンフレット

資料 1

平成 25 年度

事業概要

川崎市病院局

# 病 院 局 事 業 概 要

1	病院事業の体制	1	ページ
2	少子・高齢社会を見据えた取組	3	ページ
3	災害医療拠点としての取組	6	ページ
4	医療連携（在宅医療等）の推進に向けた取組	7	ページ
5	その他新規の取組	7	ページ
6	病院事業の充実に向けた取組	8	ページ
7	今後の課題	11	ページ

## <資 料>

1	組織機構図	12	ページ
2	本庁業務概要	14	ページ
3	職員定数	15	ページ
4	病院事業の沿革	16	ページ
5	市立病院の概要	18	ページ
6	業務状況	21	ページ
7	平成25年度予算実施計画	23	ページ

# 1 病院事業の体制

## (1) 市立病院の機能

川崎病院は市の基幹病院として、井田病院及び多摩病院は中核病院として、公共の福祉の増進と経済性の発揮を基本としながら、高度・特殊・急性期医療や、救急医療等を継続的かつ安定的に提供するとともに、災害、研修教育等の対応を含めた医療行政施策を推進し、地域医療機関との連携を進めることで、医療資源の有効活用及び本市の医療水準の向上に寄与しています。本市の病院事業は、これら3病院それぞれの特色を活かし、連携を緊密にししながら、多様化する市民の医療ニーズに的確に対応できる体制を整えています。



### ア 川崎病院

高度・特殊・急性期医療、救急医療を中心に、小児から成人・高齢者・妊産婦等の医療を提供するとともに、自身を傷つけ、または他人に害を及ぼすおそれのある精神障害者に対する救急医療の市内唯一の基幹病院としての機



能も担っております。また、市内唯一の感染症病床を有するとともに、南部地域における災害時医療の拠点としての役割を担うほか、臨床研修指定病院として医師の育成を行うなど、地域医療水準の向上に寄与しています。

## イ 井田病院

南部地域の中核病院・地域がん診療連携拠点病院として、増大するがん等の成人疾患医療、救急医療、緩和ケア医療を担うほか、市内唯一の結核病床を有する病院として、排菌している結核患者の透析への対応も可能となっております。また、再編整備により、最新の医療器械の導入など医療機能の充実を図るほか、臨床研修指定病院として医師の育成を行うなど、地域医療水準の向上に寄与しています。



## ウ 多摩病院

平成18年2月に開設され、北部地域に不足する小児救急を含めた救急医療を中心に、高度・特殊・急性期医療、アレルギー医療などを提供するとともに、救急災害医療センターを併設し、災害医療拠点病院としての役割を担っています。また、地域医療支援病院として、地域のかかりつけ医等と連携し、これを支援しながら地域全体の医療供給体制の向上を図っています。



本病院は、指定管理者制度を採用し、学校法人聖マリアンナ医科大学がその運営管理を行っています。

## **(2) 病院事業の経営形態**

自治体病院を取り巻く経営環境は、国の医療費抑制政策や地方公共団体の財政事情等により大変厳しい状況にあり、経営改善や経営基盤の強化が求められています。

そのため、本市においては、経営組織の効率化と経営責任の明確化を図る

ため、平成17年4月から病院事業に地方公営企業法を全部適用するとともに、人事・予算権限を持つ病院事業管理者を設置し、迅速な意思決定や機動的な業務執行など、企業性を発揮した病院運営体制としております。

## 2 少子・高齢社会を見据えた取組

### (1) 救急医療の提供〔川崎病院・井田病院・多摩病院〕

今後の高齢化に伴い救急医療に対する需要の増大が見込まれており、市内救急搬送患者の約3割を受け入れている川崎市立3病院は、地域の基幹病院又は中核病院として、従来にも増して、救急医療を継続的かつ安定的に提供することが求められています。

川崎病院は、川崎南部保健医療圏における小児科初期救急患者を受け入れるため、平成14年4月に川崎病院内に南部小児急病センターを、また、重症救急患者の診療に当たるため、平成18年4月に救命救急センターを開設しました。平成24年度においては、救急外来の初療ベッドを6床から10床に増設し、救急患者の受入体制を強化しました。

井田病院は、市中部に位置する救急告示病院として、市北部も含めた救急搬送患者の受入に対応いたします。また、川崎病院との連携などによる救急専門医の確保を図り、救急患者の受入体制を強化しました。

多摩病院は、川崎北部保健医療圏において小児救急医療も含めた24時間365日の救急医療を継続的に提供しています。

平成25年度も引き続き、救急患者の受入れを積極的に行ってまいります。

#### ■ 川崎市立3病院救急搬送患者受入数（平成24年度）

- ・川崎病院 8, 128 人
- ・井田病院 2, 981 人
- ・多摩病院 4, 529 人

#### ■ 川崎病院救命救急センターの運営状況（平成25年4月1日現在）

- (ア) 体制 医師 常勤14人、非常勤4人  
看護師 常勤63人、臨時職員3人
- (イ) 施設規模 20床（ICU 4床、救急病床 16床）
- (ウ) 受入状況（平成24年度実績）  
受入人数 7, 308人  
（うち三次救急人数 1, 513人）

#### ■ 川崎病院南部小児急病センターの運営状況（平成25年4月1日現在）

- (ア) 体制 小児科医師10名、新生児内科医師 5名

(イ) 受入状況（平成24年度実績） 12,684人

## (2) 井田病院再編整備の推進

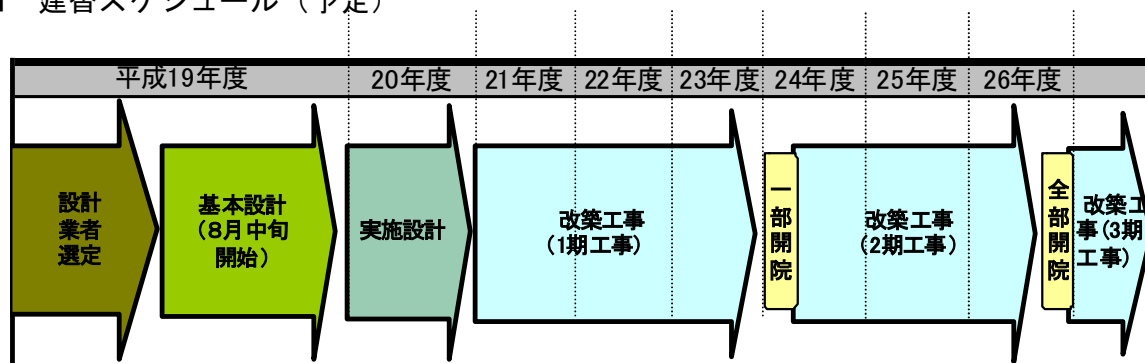
老朽化の著しい井田病院は、がん等の高度・特殊な医療の提供、成人疾患医療の強化、二次救急医療の充実など、医療機能の強化を基本方針として改築整備計画を推進しています。

平成21年度は、結核病棟仮設工事、1号棟解体工事等を施工し、平成22年度は、地下工事から順次、地上躯体工事を施工するとともに、総合医療情報システムの二次開発にも着手いたしました。平成23年度には、一部開院に向けた器材の調達を行い、前年度に引き続き地上躯体工事やシステムの二次開発を推進し、1月には新病院を一部完成させました。平成24年度は、5月に新病院を一部開院し、2号棟解体工事等を施工しました。

本年度につきましては、新病院の全部完成に向け、これから整備する病棟部分の地下工事や地上躯体工事等を施工してまいります。

今後も工事の施工に際しては、病院運営や工事の周辺環境に与える影響が最小限になるよう工事監理を徹底してまいります。

### ■ 建替スケジュール（予定）



## (3) 地域がん診療連携拠点病院の運営

### ア 地域がん診療連携拠点病院の機能強化〔井田病院〕

地域がん診療連携拠点病院は、質の高いがん医療体制を確保するとともに、患者等に対する相談支援機能を強化する等の観点から、2次医療圏に1か所程度整備することとされています。

井田病院は、平成18年8月に地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、平成22年4月には指定の更新を受けました。今後とも、地域がん診療連携拠点病院として、我が国に多い五大がん（肺がん、胃がん、肝がん、大

腸がん、乳がん)をはじめ、子宮がん、前立腺がんの治療、外来化学療法の充実、緩和ケアの提供などを行うとともに、がん医療に携わる医師等を対象とした緩和ケア等の研修や症例検討会、市民公開講座の開催、がんに関する相談支援の実施など、地域のがん医療水準の向上や患者サービスの向上に努めてまいります。

## イ 緩和ケアの推進〔井田病院〕

井田病院では、がんなどで治ることが難しい患者に対して、痛みや苦しみを和らげ生活の質(QOL)を高めることにより、患者やその家族の身体的、精神的に支援する緩和ケアを提供しています。医師、臨床心理士、看護師、栄養士、薬剤師など多職種の緊密な連携によるチーム医療・ケアを行っており、患者の病状に合わせて、入院、外来、在宅のいずれであっても、安心して緩和ケアを受けることが可能となっています。

今後、高齢化の進展によるがん患者の増加に伴い、緩和ケアを必要とする患者も増加が見込まれることから、既存のかわさき総合ケアセンターの緩和ケア病棟を、現在の20床から23床に増床\*することとし、取組を進めております。

### ■ 緩和ケア病棟の運営状況 (平成25年4月1日現在)

(ア) 体制 医師 常勤4人(専任1名、兼務3名)  
非常勤4人(兼務4名)  
看護師 常勤19人  
看護助手 臨時職員1人

(イ) 施設規模 20床

※ 増床計画 平成25年度～ 設計・工事  
平成26年度 供用開始予定

(ウ) 受入状況(平成24年度速報値)  
延入院患者数 6,826人

## (4) 地域周産期医療センターの運営〔川崎病院〕

川崎病院では、平成13年1月から一時的に休止していた新生児集中治療管理室(NICU)を平成21年4月から1床増床して6床で再開するとと





もに、平成22年4月には、周産期に係る比較的高度な医療行為を行うことができる施設として、地域周産期母子医療センターの認定を受けました。市民が安心してお産ができるよう、平成25年度も引き続き同センターの安定的な運営を行い、市内周産期救急医療体制の充実に努めてまいります。

■ 地域周産期母子医療センターの運営について

(ア) 運営体制（平成25年4月1日現在）

医師 産科・婦人科12人／新生児科5人

助産師・看護師 産科病棟30人／NICU14人／GCU（NICUの後方支援病床）15人

(イ) 稼働病床数（平成25年4月1日現在）

産科 42床、NICU 6床、GCU 12床

(ウ) 延入院患者数（平成24年度）

NICU 2,070人／GCU 2,430人

周産期救急患者受入件数 産科37件／新生児科92件

### 3 災害医療拠点としての取組〔川崎病院・井田病院・多摩病院〕

川崎病院及び多摩病院は、神奈川県災害医療拠点病院として指定を受け、災害時における重症患者の受入れや救命医療、広域的な搬送の対応などを行うこととされています。

また、川崎病院では、市内で発生した災害や事故等の現場に医師等の医療チームを派遣する「市内救急医療派遣事業（通称：Kawasaki ONE PIECE）」を平成20年6月から開始し、平成21年7月にはより大規模な災害等に派遣する川崎DMAT（災害医療派遣チーム：Disaster Medical Assistant Team）の1番目の設置病院として指定を受けました。さらに、平成23年3月には、神奈川県内外で発生した大規模な災害や事故等の現場に医師等の医療チームを派遣する神奈川DMAT指定病院の指定を受けました。

平成25年度は、東日本大震災を受け災害時体制の見直しを図り、ライフライン等が停止しても最低限3日間は診療体制が維持できる体制の整備に着手し、医薬品や診療材料、食料及び簡易トイレ等の備蓄品の購入や、災害時の通信体制維持用に衛星電話を導入、多数の患者発生に備えた簡易ベッド等の災害時受け入れ用資機材の整備を予定しております。

併せて、川崎市全体で地震時被害想定の見直しを受け各防災計画の見直しを図ることとなっておりますので、病院局におきましても、防災マニュアル等の見直しを図る予定です。

## 4 医療連携（在宅医療等）の推進に向けた取組〔川崎病院・井田病院・多摩病院〕

地域で必要な医療を確保し、地域の医療機関との連携を図る観点から、かかりつけ医等を支援する医療機関として、概ね二次医療圏に1箇所程度、「地域医療支援病院」を整備することとされています。多摩病院は、平成23年2月に承認を受け、同年3月からその運用を開始しました。今後も引き続き、紹介患者に対する医療の提供を推進するとともに、医療機器の共同利用や地域の医療従事者を対象とした研修の実施、あるいは救急医療の提供など、地域医療支援病院としての役割を果たしてまいります。川崎病院及び井田病院については、引き続き名称承認に向けての取り組みを推進してまいります。

また、高齢化に伴い、臓器や領域を超えた多様な問題を抱える患者が今後増えること、及び慢性疾患等に対して継続的なケアを必要としている患者が多いことから、総合的な診療能力を有する医師の必要性が以前にも増して注目されています。地域医療を支える総合診療医の育成について検討してまいります。

## 5 その他新規の取組

### (1) リウマチ膠原病・痛風センターの運営〔川崎病院・井田病院〕

関節リウマチの診療は、検査法の進歩や新しい薬剤の開発と、近年大きな変貌を遂げ、早期診断・早期治療により、病気を寛解に導くことも可能になりました。その一方で、関節の変形で日常生活に支障が来たり、リハビリテーションや整形外科手術が必要となる患者も多くいます。そのため、内科、整形外科、リハビリテーション科の医師に加え、看護ケアを担うコメディカルスタッフが一体となったトータルケアが求められています。膠原病は全身の臓器を侵す難治性疾患であり、その診療には多種の診療科の密な連携が可能な施設が必要です。そこで、これらの病気の早期診断と集学的医療の提供を目的として、平成24年12月に井田病院に、平成25年4月に川崎病院に、診療科横断的な組織であるリウマチ膠原病・痛風センターを設置いたしました。

## **(2) 助産外来の開始〔川崎病院〕**

川崎病院では、助産師が妊婦健診を行う助産外来を平成25年3月から開始しました。妊娠23週までの妊婦健診で医師から経過良好と診断され、合併症や産科的既往のない方で助産外来を希望する方を対象としています。

助産外来では医師と助産師が連携して診察にあたっており、異常が疑われる場合だけでなく、妊娠中期・後期には健診スケジュールに沿って医師の健診を受けていただくことになっています。

■ 助産外来実施日 (平日) 月～金曜日 1日12枠 (予約制)

## **6 病院事業の充実に向けた取組**

### **(1) 川崎市病院事業経営健全化計画の推進**

病院事業では、「第2次川崎市病院事業経営健全化計画」(計画期間：平成21年度～平成23年度)に基づき、市立病院の経営健全化に向けた取組を推進してきました。しかし、国において社会保障制度や消費税率の見直しが見込まれるなど、社会経済環境が不透明かつ困難な状況にある中、市立病院は、救急医療などの政策的医療、小児・周産期医療や高度・特殊医療などを継続的かつ安定的に提供することにより、市民の生命と健康を守るという使命を果たすことが求められており、更なる医療の質の向上と経営基盤の強化を図る必要があることから、市立病院の運営方針となる「第3次川崎市病院事業経営健全化計画」(計画期間：平成24年度～平成26年度)を平成24年3月に策定しました。

平成25年度は引き続き経営健全化の取組を進めるとともに、平成24年度における取組状況について、外部の学識経験者等からなる「川崎市立病院運営委員会」による点検・評価を実施してまいります。

### **(2) 病院モニター制度の運用〔川崎病院・井田病院〕**

平成23年度から、川崎病院及び井田病院において、市民から信頼される病院づくりの実現に資することを目的として、市立病院の運営や患者サービスの向上に関する意見、要望等を広く聴取するため、病院モニター制度を導入しました。

病院モニターは、当該病院の患者又はその御家族、病院ボランティア、町

内会関係者、医療関係者等で構成されています。病院モニターと病院職員からなる病院モニター会議で、病院運営全般及び患者サービスの向上について意見交換した後、改善取組案を検討・決定し、ホームページ上で公表します。

### (3) 助産師・看護師確保対策の強化〔川崎病院・井田病院〕

全国的な医師、助産師、看護師不足の中で、看護師の確保は、市立病院として医療や看護の質を低下させないためにも特に重要な課題と捉え、平成25年度においては、昨年度と同様、採用案内パンフレット作成、雑誌広告、ホームページの強化、全国の看護師養成学校に対する学校訪問、川崎病院及び井田病院における病院見学会、新卒者を対象とした春季・夏季インターンシップ、東京、地方会場等での合同病院説明会、採用者に対する国家試験対策・合格者説明会を実施してまいります。

また、手厚い看護の実施や看護職員の勤務環境の改善を目的とし、川崎病院においては7対1看護配置基準の維持（平成24年11月から7対1看護配置基準に移行）、井田病院においては平成27年度中の導入を目指し、今後も引き続き積極的な確保対策を図ってまいります。

#### ■ 平成24年度 助産師・看護師確保のための取組実績

日程	取組内容
4月	雑誌広告、ホームページ、採用案内パンフレット作成
5月～8月 10月 平成25年1月	看護師養成学校重点校訪問 年3回（延べ75校） 看護師養成学校就職ガイダンス参加（9施設）
7月30日～ 8月22日） （計4回）	看護学生インターンシップ実施（参加者30人）
5月～7月 （計6回）	合同病院説明会参加（ブース来訪者156人）
4月～9月 （計5回）	病院見学会実施（参加者111人）
12月	合格者説明会・国家試験対策（参加者60人）
年間	個別の病院見学等（29人）

■ 平成24年度 助産師・看護師採用選考の応募実績等

	応募者数	採用者数
助産師	6人	2人
看護師	140人	92人
計	146人	94人

(4) 入院・外来自己負担未収金のコンビニエンスストア払いの利用促進

〔川崎病院・井田病院〕

川崎市が全庁的に取り組んでいる滞納債権対策の一環として、平成22年3月1日から、川崎病院と井田病院の入院・外来自己負担未収金についてコンビニエンスストア（提携コンビニ14社）でも納付できることといたしました。従来までの「病院での直接支払い」及び「銀行振込み」に「コンビニエンスストア払い」を加えることによって、滞納者の支払い手段を拡大しました。平成22年度から取り組んでいる医事業務委託業者の活用等による電話及び文書催告の強化と併せ、滞納債権の縮減に努めてまいります。

## 7 今後の課題 ～さらなる病院事業の充実のために～

### (1) 救急医療体制の充実

高齢化に伴う救急搬送患者の増加に対応するため、より効果的・効率的な救急受入体制を継続して整備してまいります。

### (2) 小児救急医療体制の充実

救急搬送件数が増大する中、小児重症患者の受入れ体制の強化が求められております。

### (3) 周産期救急医療体制の充実

高齢出産の増加等、社会状況の変化に対応した周産期救急医療を継続して提供してまいります。

### (4) 在宅医療の推進

高齢化に伴う在宅医療ニーズの高まりを受け、市立病院としての在宅医療支援を推進してまいります。

### (5) 医療人材の確保・育成

医療需要に応え地域医療水準の維持・向上を図るため、引き続き、医師をはじめとした医療人材の継続的な確保・育成に努めてまいります。

### (6) IT化の推進

市立病院間の連携や効率的に医療を提供するため、IT技術を活用した医療支援・医療連携について推進してまいります。

### (7) 経営健全化の推進

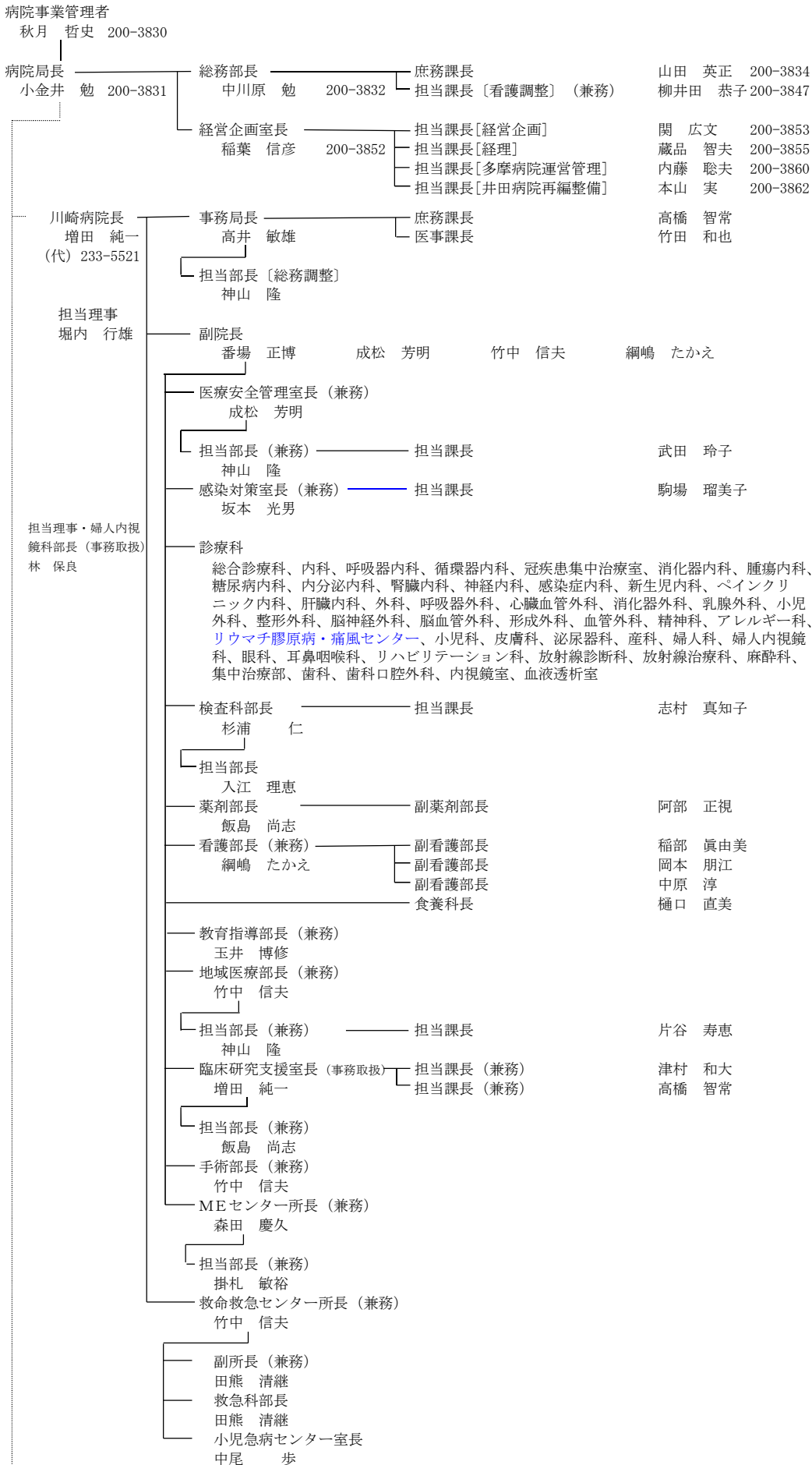
安定的に病院事業を運営するため、引き続き経営健全化の取組を進めるとともに、取組状況について外部の学識経験者等による点検・評価を実施します。

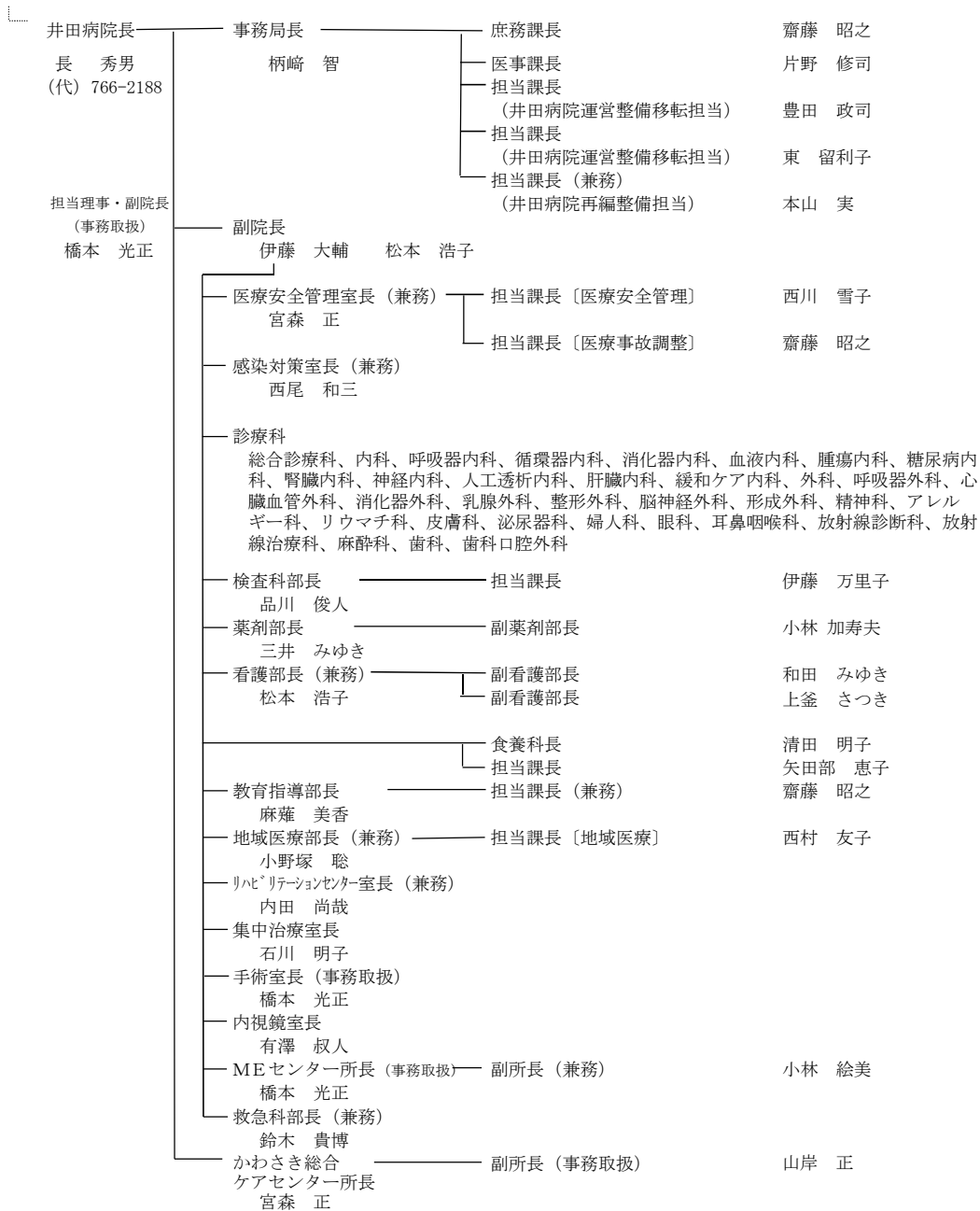
### (8) 市民に優しい医療の提供

病院モニター制度の運用やコンシェルジュの配置など、公立病院として、市民から信頼され、より安心して受診できる環境を整備してまいります。

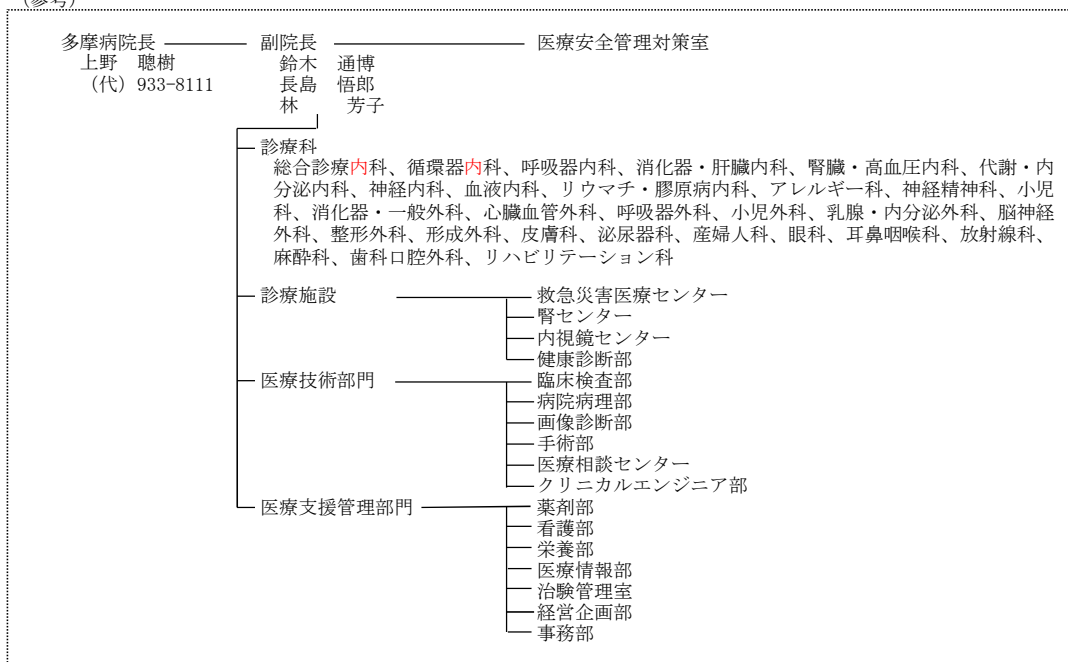
# <資料>

## 1 組織機構図(平成25年4月1日現在)



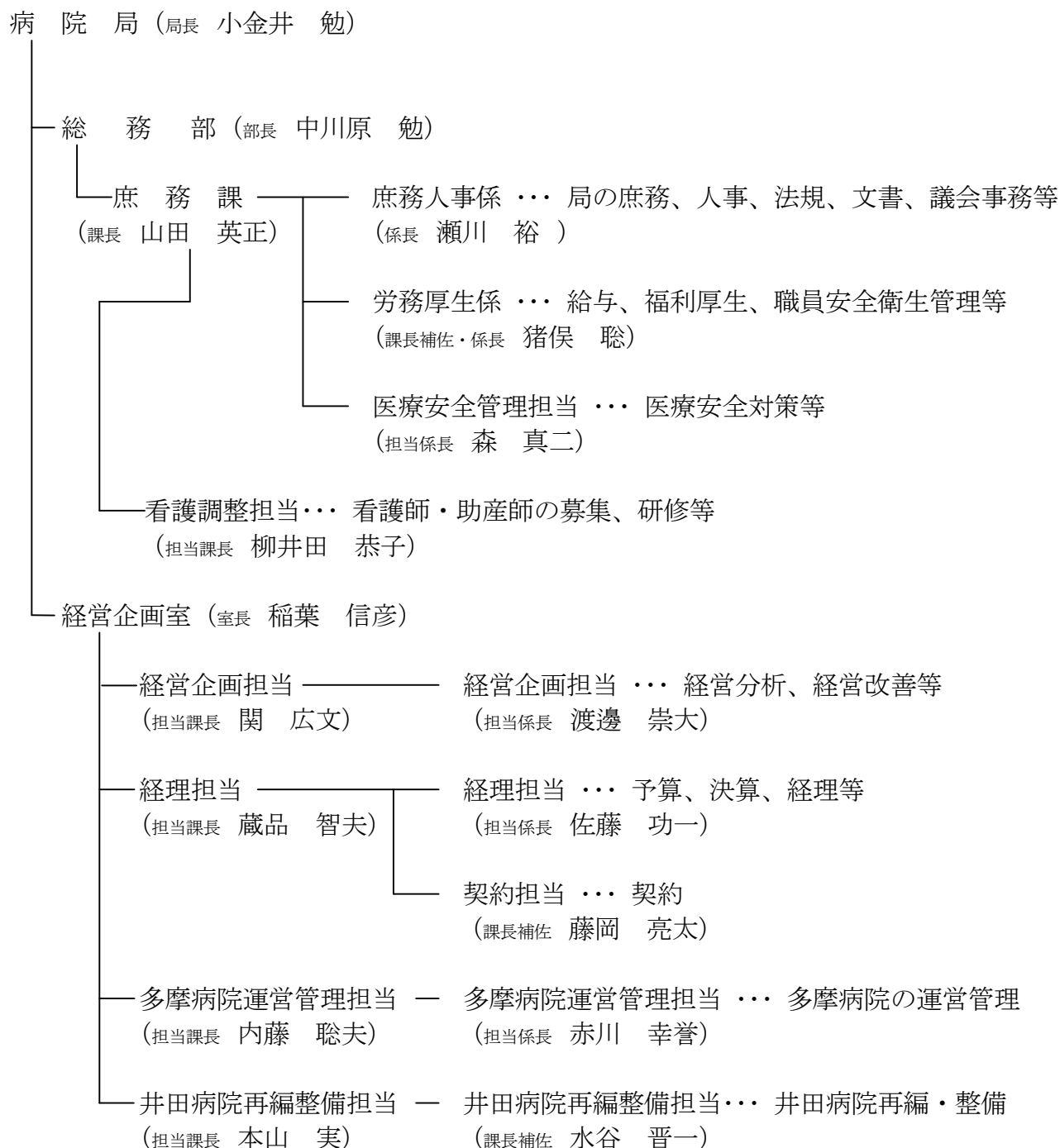


(参考)





## 2 本庁業務概要（平成25年4月1日現在）



### 3 職員定数（平成25年4月1日現在）

#### (1) 特別職

病院事業管理者	1
---------	---

#### (2) 一般職

##### ①所属別職員定数

所属	職員定数	
病院局本庁	局長	1
	総務部長	1
	庶務課	12
	経営企画室	19
	小計	33
市立川崎病院	病院長	1
	副院長	4
	事務局長	1
	総務調整担当部長	1
	庶務課	16
	医事課	9
	医療安全管理室	2
	感染対策室	1
	診療科	157
	検査科	23
	薬剤部	22
	看護部	590
	食養科	6
	地域医療部	4
	救命救急センター	9
	小計	846
	市立井田病院	病院長
副院長		4
事務局長		1
井田病院運営整備移転担当		2
庶務課		14
医事課		7
医療安全管理室		1
感染対策室		1
診療科		61
検査科		19
薬剤科		13
看護部		247
食養科		5
地域医療部		3
リハビリテーションセンター		7
MEセンター		4
救急科		1
かわさき総合ケアセンター	6	
小計	397	
合計	1,276	

##### ②職種別職員定数

職種	職員定数	
一般職 (事務系)	一般事務職	82
	社会福祉職	6
	心理職	2
	小計	90
一般職 (技術系)	医師	173
	歯科医師	3
	薬剤師	35
	助産師	26
	看護師	821
	歯科衛生士	3
	栄養士	9
	臨床検査技師	39
	診療放射線技師	43
	理学療法士	10
	作業療法士	4
	言語聴覚士	3
	視能訓練士	3
	臨床工学技士	9
	電気職	2
	機械職	2
	ハウスキーパー	1
小計	1,186	
合計	1,276	

#### 4 病院事業の沿革

年 月	内 容
昭和 11年12月	伝染病院として、川崎市立病院開設（現川崎病院、病床数96床）
20年 6月	総合病院に切り替え、川崎市立川崎病院と改称
24年 3月	結核・伝染病院として、川崎市立井田病院開設（病床数50床）
39年 4月	地方公営企業法の一部適用（川崎病院）
40年 8月	川崎病院が救急病院に認定
43年 4月	地方公営企業法の一部適用（井田病院）
48年 4月	川崎市立三田病院開設（病床数66床）
53年 4月	病院事業部の設置
60年 1月	副院長2人制の導入（川崎病院）
平成 元年 4月	看護部制の実施
3年 3月	三田病院の廃止
6年 4月	経営担当理事の設置
9年 4月	衛生局と民生局が統合し、健康福祉局に機構改革
〃	病院事業部を廃止し病院事業課を設置
10年10月	かわさき総合ケアセンター開設
10年11月	川崎病院の新病棟・中央診療棟開設
11年 7月	病院事業が川崎市として初の包括外部監査を受ける。
12年 4月	川崎病院の新病棟・中央診療棟・外来診療部門の全面オープン
13年 1月	川崎病院新生児集中治療管理室（NICU）の休止
〃	川崎病院脳死判定による臓器摘出手術の実施
13年 3月	病院基本理念の策定
13年 4月	川崎駅川崎病院間の直通ワンコインバス運行開始
13年 7月	厚生労働省、神奈川県社会保険事務局及び神奈川県による特定共同指導（川崎病院）
14年 4月	職員の再任用制度の開始
〃	精神科救急24時間体制（川崎病院）
〃	川崎病院内に南部小児急病センターが開設
15年 4月	経営担当理事の廃止
〃	院外処方の実施（川崎病院）
15年 6月	院外処方の実施（井田病院）
16年 4月	健康福祉局に病院経営管理室を設置
〃	看護部長を副院長とし、副院長3人制を導入
17年 4月	地方公営企業法の全部適用
〃	病院局の設置
17年 7月	救急センターの設置（川崎病院）
〃	土曜日外来の実施（井田病院）

年 月	内 容
平成 17年 9月	日本初の西ナイル熱ウイルスの同定（川崎病院）
18年 2月	多摩病院開設（病床数232床）
18年 3月	川崎市病院事業経営健全化計画の策定
〃	川崎市立井田病院再編整備基本構想の策定
18年 4月	救命救急センター、放射線診断科、放射線診療科、集中治療部、薬剤部の設置（川崎病院）
18年 8月	地域がん診療連携拠点病院の指定（井田病院）
18年12月	患者送迎用シャトルバスの試行実施（井田病院）
18年12月	ヘリポート夜間照明設備設置工事等の完了（川崎病院）
19年 3月	川崎市立井田病院再編整備基本計画の策定
19年 4月	多摩病院の全面オープン（病床数376床）
〃	副院長4人制の導入（川崎病院）
20年 6月	市内救急医療派遣事業の開始（川崎病院）
21年 3月	第2次川崎市病院事業経営健全化計画の策定
21年 4月	新生児集中治療管理室（NICU）の再開（川崎病院）
21年 7月	川崎DMA T設置病院の指定（川崎病院）
22年 4月	地域周産期母子医療センターの認定（川崎病院）
〃	臨床研究支援室の設置（川崎病院）
22年11月	井田病院が救急病院に指定
23年 2月	地域医療支援病院名称承認（多摩病院）
24年 3月	第3次川崎市病院事業経営健全化計画の策定
24年 5月	井田病院の新病院一部開院
24年 8月	川崎病院病床数733床から713床へ変更
〃	井田病院病床数425床から383床へ変更
24年12月	リウマチ膠原病・痛風センター設置（井田病院）
25年 3月	助産外来開始（川崎病院）
25年 4月	リウマチ膠原病・痛風センター設置（川崎病院）

## 5 市立病院の概要

### (1) 川崎病院(川崎市川崎区新川通 12 番1号)

整備時期	整備内容										
昭和 11 年 12 月	伝染病院として開設 (96 床)										
平成 7 年 7 月 ～平成 10 年 11 月	<table border="0"> <tr> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">病棟・中央診療棟建設</td> <td rowspan="3" style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> <td>鉄骨造・鉄骨鉄筋</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート造</td> <td>地下 1 階 地上 15 階</td> </tr> <tr> <td>延床面積</td> <td>49,890.18 m<sup>2</sup></td> </tr> </table>	病棟・中央診療棟建設	}	鉄骨造・鉄骨鉄筋		コンクリート造	地下 1 階 地上 15 階	延床面積	49,890.18 m <sup>2</sup>		
病棟・中央診療棟建設				}	鉄骨造・鉄骨鉄筋						
					コンクリート造	地下 1 階 地上 15 階					
	延床面積	49,890.18 m <sup>2</sup>									
平成 10 年 12 月 ～平成 12 年 3 月	外来棟建設										
平成 12 年 4 月 ～平成 13 年 3 月	<table border="0"> <tr> <td>外構整備</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(許可病床数) 713 床</td> <td rowspan="3" style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> <td>一般病床 663 床</td> </tr> <tr> <td></td> <td>感染症病床 12 床</td> </tr> <tr> <td></td> <td>精神病床 38 床</td> </tr> </table> <p>(診療科目) 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腫瘍内科、糖尿病内科、内分泌内科、腎臓内科、神経内科、感染症内科、新生児内科、ペインクリニック内科、肝臓内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、血管外科、精神科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、救急科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科 (40 科)</p> <p>(基本的医療機能)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救命救急センター</li> <li>・救急外来 (24 時間体制)</li> <li>・小児救急医療 (小児急病センター)</li> <li>・精神科救急医療</li> <li>・急性期・高度医療</li> <li>・感染症医療</li> <li>・災害時医療の南部拠点</li> <li>・地域医療機関との連携</li> </ul> <p>(運営形態) 公設公営方式</p>	外構整備			(許可病床数) 713 床	}	一般病床 663 床		感染症病床 12 床		精神病床 38 床
外構整備											
(許可病床数) 713 床	}	一般病床 663 床									
		感染症病床 12 床									
		精神病床 38 床									

(2) 井田病院（川崎市中原区井田2丁目27番1号）

整備時期	整備内容														
昭和24年3月	結核・伝染病院として開設（50床）														
昭和35年5月 昭和43年5月 昭和45年12月 昭和50年3月 昭和50年7月	<table border="0"> <tr> <td>1号棟 完成</td> <td rowspan="2">}</td> <td rowspan="2">鉄筋コンクリート造 地上4階</td> <td rowspan="6">}</td> <td rowspan="6">延床面積 31,599.54 m<sup>2</sup> (敷地面積) 36,702.04 m<sup>2</sup> (駐車台数) 175台</td> </tr> <tr> <td>1号棟増築完成</td> </tr> <tr> <td>2号棟 完成</td> <td rowspan="2">}</td> <td rowspan="2">鉄筋コンクリート造 地下1階、地上5階</td> </tr> <tr> <td>2号棟増築完成</td> </tr> <tr> <td>3号棟 完成</td> <td rowspan="2">}</td> <td rowspan="2">鉄筋コンクリート造 地下1階、地上4階</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </table>	1号棟 完成	}	鉄筋コンクリート造 地上4階	}	延床面積 31,599.54 m <sup>2</sup> (敷地面積) 36,702.04 m <sup>2</sup> (駐車台数) 175台	1号棟増築完成	2号棟 完成	}	鉄筋コンクリート造 地下1階、地上5階	2号棟増築完成	3号棟 完成	}	鉄筋コンクリート造 地下1階、地上4階	
1号棟 完成	}	鉄筋コンクリート造 地上4階					}	延床面積 31,599.54 m <sup>2</sup> (敷地面積) 36,702.04 m <sup>2</sup> (駐車台数) 175台							
1号棟増築完成															
2号棟 完成	}	鉄筋コンクリート造 地下1階、地上5階													
2号棟増築完成															
3号棟 完成	}	鉄筋コンクリート造 地下1階、地上4階													
平成9年6月 ～平成10年10月	緩和ケア病棟完成 鉄筋コンクリート造 地上3階														
平成21年7月	井田病院改築工事着手														
平成24年5月	<p>新棟一部開院</p> <p>(許可病床数) 383床</p> <table border="0"> <tr> <td rowspan="2">}</td> <td>一般病床</td> <td>343床</td> </tr> <tr> <td>結核病床</td> <td>40床</td> </tr> </table> <p>(診療科目) 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、腫瘍内科、糖尿病内科、腎臓内科、神経内科、人工透析内科、肝臓内科、緩和ケア内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、アレルギー科、リウマチ科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、救急科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科（34科）</p> <p>(基本的医療機能)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域がん診療連携拠点病院</li> <li>・ 成人疾患医療</li> <li>・ 二次救急医療</li> <li>・ 結核医療</li> <li>・ 地域医療機関との連携</li> <li>・ 緩和ケア医療</li> <li>・ 在宅医療</li> </ul> <p>(運営形態) 公設公営方式</p>	}	一般病床	343床	結核病床	40床									
}	一般病床		343床												
	結核病床	40床													

(3) 多摩病院 (川崎市多摩区宿河原1丁目30番37号)

整備時期	整備内容
平成18年2月	<p>開設 (232 床)</p> <p>病院棟 鉄骨・鉄筋コンクリート造(免震構造) 地下2階、地上6階、塔屋1階</p> <p>駐車場棟 鉄筋コンクリート造 地下3階、地上1階</p> <p>延べ面積 35,620.15 m<sup>2</sup>(うち駐車場棟 6,203.33 m<sup>2</sup>) (敷地面積) 14,260.73 m<sup>2</sup> (駐車台数) 178 台</p>
平成18年5月	増床 (280 床) ※5/17～
平成18年11月	増床 (305 床) ※11/20～
平成19年3月	増床 (317 床) ※3/1～
平成19年4月	<p>全面オープン (376 床)</p> <p>(許可病床数) 376 床 { 一般病床 376 床</p> <p>(診療科目) 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、糖尿病内科、腎臓内科、神経内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科 (30 科)</p> <p>(基本的医療機能)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急外来(24 時間体制)</li> <li>・急性期・高度医療</li> <li>・災害時医療の北部拠点</li> <li>・地域医療機関との連携</li> </ul> <p>(運営形態) 指定管理者方式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者 学校法人聖マリアンナ医科大学</li> </ul>

## 6 業務状況

表1 入院患者数の推移

(単位:人)

			20年度	21年度	22年度	23年度	24年度※
川崎病院	一般病床	延べ	212,684	214,540	215,122	199,390	194,967
		一日平均	582.7	587.8	589.4	544.8	534.2
	感染症病床	延べ	0	194	0	0	0
		一日平均	0.00	0.53	0.00	0.00	0.00
精神病床	延べ	12,585	12,685	12,260	11,062	10,573	
	一日平均	34.5	34.8	33.6	30.2	29.0	
計	延べ	225,269	227,419	227,382	210,452	205,540	
	一日平均	617.2	623.1	623.0	575.0	563.1	
井田病院	一般病床	延べ	109,509	110,797	109,598	106,895	89,328
		一日平均	300.0	303.6	300.3	292.1	244.7
	結核病床	延べ	8,753	8,950	8,215	8,316	6,689
		一日平均	24.0	24.5	22.5	22.7	18.3
計	延べ	118,262	119,747	117,813	115,211	96,017	
	一日平均	324.0	328.1	322.8	314.8	263.1	
多摩病院	一般病床	延べ	111,288	109,727	107,933	110,691	107,157
		一日平均	304.9	300.6	295.7	302.4	293.6
合計	延べ	454,819	456,893	453,128	436,354	408,714	
	一日平均	1,246.1	1,251.8	1,241.4	1,192.2	1,119.8	

※平成24年度については速報値となります。

図1 入院患者数の推移

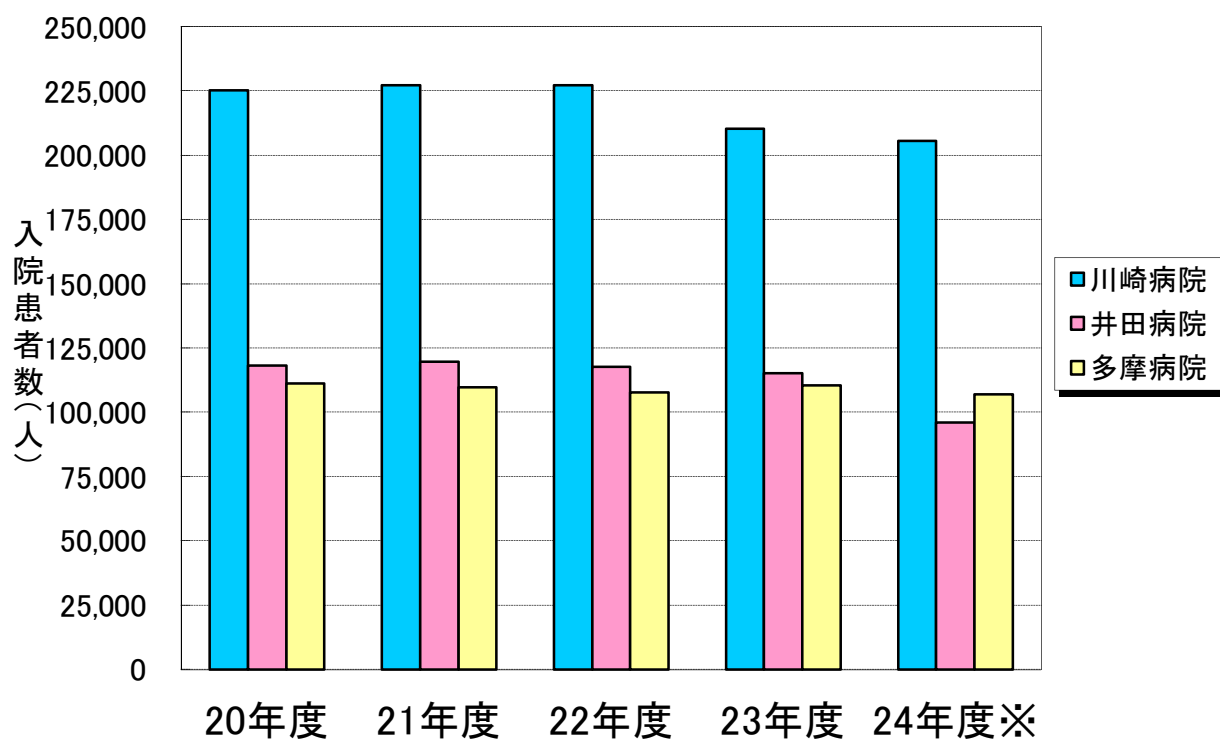




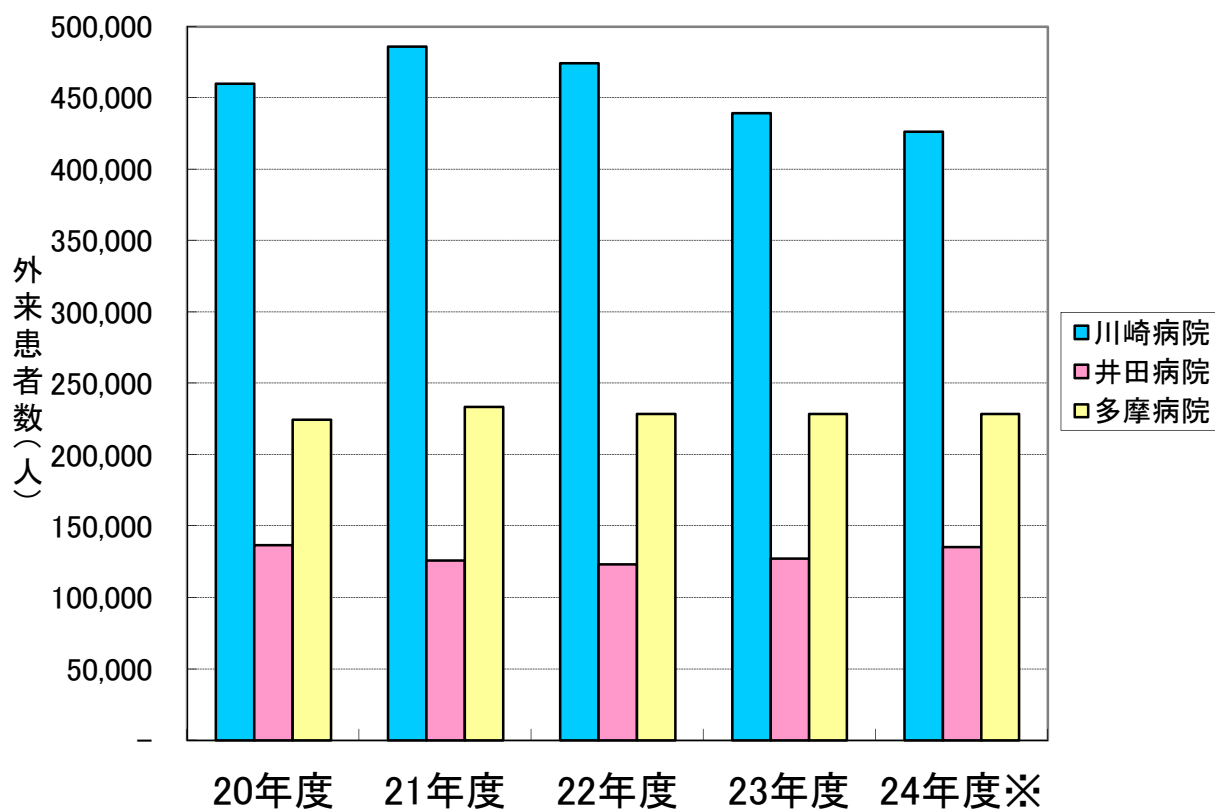
表2 外来患者数の推移

(単位：人)

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度※
川崎病院	延べ	460,143	486,079	474,171	439,237	426,234
	一日平均	1,893.6	2,008.6	1,951.3	1,800.2	1,739.7
井田病院	延べ	136,733	126,134	123,455	127,283	135,336
	一日平均	562.7	521.2	508.0	521.7	552.4
多摩病院	延べ	224,751	233,530	228,519	228,851	228,875
	一日平均	829.3	864.9	843.2	844.5	844.6
合 計	延べ	821,627	845,743	826,145	795,371	790,445
	一日平均	3,285.6	3,394.7	3,302.6	3,166.3	3,136.7

※平成24年度については速報値となります。

図2 外来患者数の推移



## 7 平成25年度予算実施計画

### 収益的収入及び支出

款	項	目	予 定 額 (千円)	備 考
1 病 院 事 業 収 益	1 医業収益	1 入 院 収 益	31,173,034	入院診療収益 外来診療収益 室料差額収益、一般会計負担金等
		2 外 来 収 益	24,812,123	
		3 そ の 他 医 業 収 益	15,835,970	
	2 医業外収益	1 受 取 利 息 配 当 金	6,132,530	預金利息 一般会計補助金 国・県補助金 一般会計負担金 患者外給食収益 その他医業外収益
		2 他 会 計 補 助 金	2,843,623	
		3 補 助 金	6,356,528	
		4 負 担 金 交 付 金	1,191	
		5 患 者 外 給 食 収 益	1,724,056	
		6 そ の 他 医 業 外 収 益	67,039	
	3 特別利益	1 固 定 資 産 売 却 益	3,784,051	固定資産売却差益 過年度損益修正益
		2 過 年 度 損 益 修 正 益	1,350	
			778,841	
			4,383	
			2	
			4,381	

### 支 出

款	項	目	予 定 額 (千円)	備 考	
1 病 院 事 業 費 用	1 医業費用	1 給 与 費	31,954,206	職員の給料、手当等 薬品費、診療材料費、給食材料費等 経営に要する諸経費 固定資産減価償却費 固定資産除却費等 学会出張旅費、図書費、研修受講料	
		2 材 料 費	30,675,330		
		3 経 費	13,728,651		
		4 減 価 償 却 費	5,353,094		
		5 資 産 減 耗 費	7,404,708		
		6 研 究 研 修 費	4,051,251		
	2 医業外費用	1 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	8,361	企業債利息等 患者外給食材料費 消費税及び地方消費税納付額 雑損失	
		2 患 者 外 給 食 材 料 費	129,265		
		3 消 費 税 及 び 地 方 消 費 税	1,154,677		
		4 雑 損 失	1,105,526		
	3 特別損失	1 固 定 資 産 売 却 損	2,382	固定資産売却差損 過年度損益修正損	
		2 過 年 度 損 益 修 正 損	46,765		
			4		
	4 予 備 費	1 予 備 費	114,199	予備費	
			2		
				114,197	
				10,000	
			10,000		

資 本 の 収 入 及 び 支 出

収 入

款	項	目	予 定 額 (千円)	備 考
1 病院事業資本の収入	1 企業債		4,645,710	
			4,057,000	
	2 固定資産売却代金	1 企業債	4,057,000	病院施設整備事業債、 医療器械整備事業債
			2	
	3 補助金	1 固定資産売却代金	2	固定資産売却代金
			2	
	4 負担金	1 補助金	2	国庫補助金
		588,706		
	1 他会計負担金	588,706	一般会計負担金	

支 出

款	項	目	予 定 額 (千円)	備 考
1 病院事業資本の支出	1 建設改良費		7,921,704	
			4,470,016	
		1 病院整備事業費	3,474,902	病院施設整備事業
		2 改良費	342,873	施設改良に要する費用
		3 医療器械整備費	587,792	高額医療器械購入費
	2 企業債償還金	4 資産購入費	64,449	医療器械購入費等
		1 企業債償還金	3,451,688	企業債償還元金



## 1 市立病院の機能

川崎病院は市の基幹病院、井田病院及び多摩病院は地域の中核病院として、高度・特殊・急性期医療や救急医療等を継続的かつ安定的に提供するなど、本市の医療水準の向上に寄与するとともに、3病院それぞれの特色を生かしながら、今後の社会医療状況を見据え、多様化する医療ニーズに対応

## 2 少子・高齢社会を見据えた取組

### (1) 救急医療の提供

川崎病院 井田病院 多摩病院

- 3病院全体で市内救急搬送患者の約3割を受入れ
- 平成14年4月 南部小児急病センター開設〔川崎〕
- 平成18年4月 救命救急センター開設〔川崎〕
- 平成24年11月 初療ベッドの増床(6床→10床)〔川崎〕
- 平成22年11月 救急告示病院指定〔井田〕
- 小児二次救急医療〔多摩〕

### (2) 井田病院再編整備の推進

井田病院

基本方針／がん等の高度・特殊な医療の提供や成人疾患医療の強化、二次救急医療の充実等による医療機能強化

- 平成24年5月 新病院一部開院
- 平成26年度の全部開院に向けた新病院建設の推進

### (3) 地域がん診療連携拠点病院の運営

井田病院

(平成18年8月～)

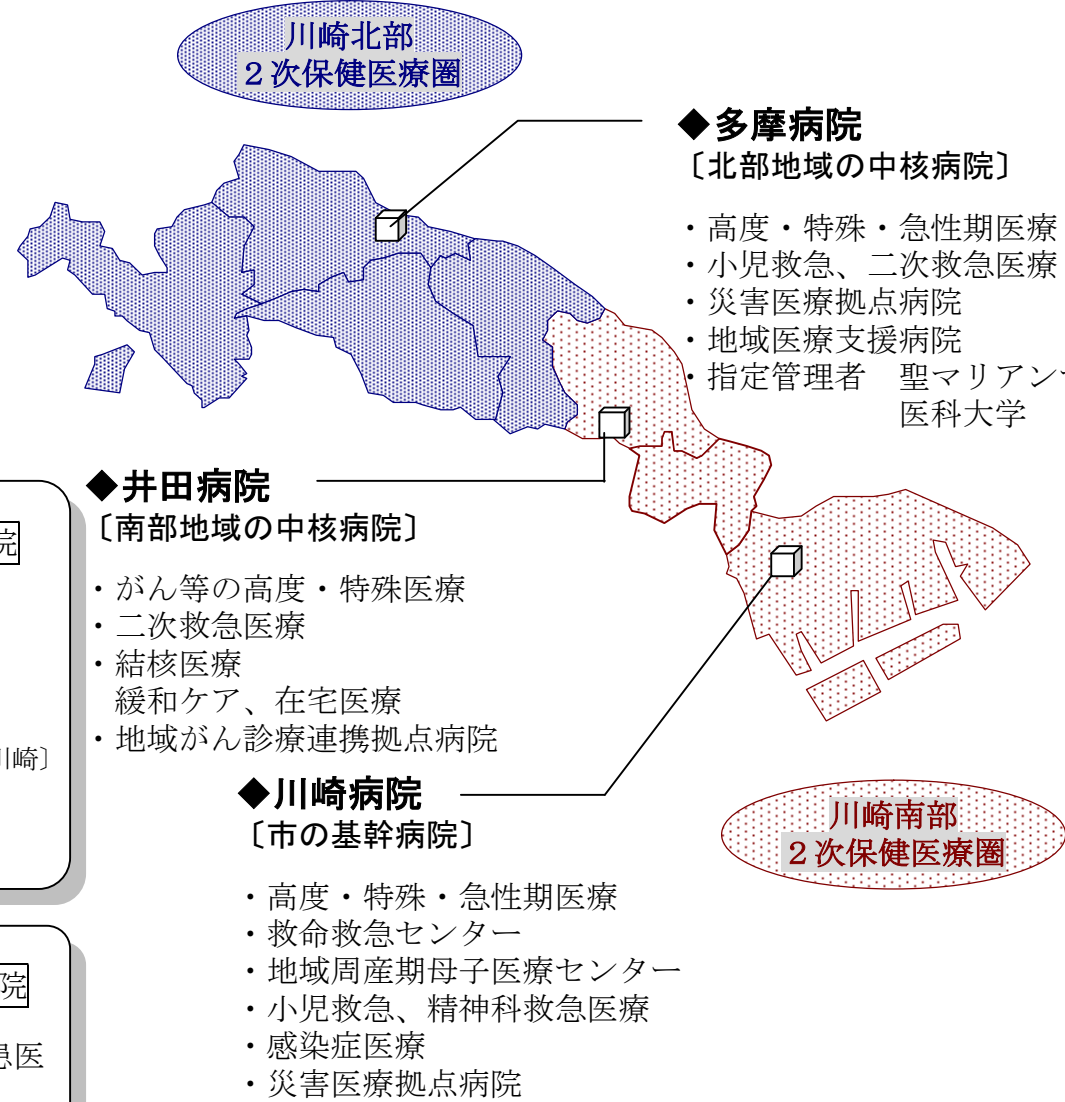
- 5大がん(肺がん・胃がん・肝がん・大腸がん・乳がん)や子宮がん、前立腺がんの治療等の実施
- 地域の医療従事者を対象とした研修等の実施
- 緩和ケア病棟の増床(20床→23床)〔平成25年度整備〕

### (4) 地域周産期母子医療センターの運営

川崎病院

(平成22年4月～)

- 平成21年4月 新生児集中治療管理室(NICU)6床及び新生児回復治療室(GCU)12床の運営



## 3 災害医療拠点としての取組

### 災害時医療の提供

川崎病院 井田病院 多摩病院

- 神奈川県災害医療拠点病院の運営〔川崎・多摩〕
- 災害医療派遣チーム(DMAT)等の設置〔川崎〕
- 医薬品・食料等の備蓄品を拡充〔3病院、平成25年度〕
- 災害時通信体制の強化〔3病院、平成25年度〕

## 4 医療連携(在宅医療等)の推進に向けた取組

### 地域医療支援機能の拡充

川崎病院 井田病院 多摩病院

- 平成23年3月 地域医療支援病院の運営〔多摩〕
- 地域医療支援病院の承認に向けた取組〔川崎・井田〕
- 地域医療を支える総合診療医の育成

## 今後の課題

～さらなる病院事業の充実のために～

### (1) 救急医療体制の充実

⇒ 高齢化に伴う救急搬送患者の増加に対応するため、より効果的・効率的な救急受入体制を継続して整備してまいります。

### (2) 小児救急医療体制の充実

⇒ 救急搬送件数が増大する中、小児重症患者の受入れ体制の強化が求められております。

### (3) 周産期救急医療体制の充実

⇒ ハイリスク出産の増加等、社会状況の変化に対応した周産期救急医療を継続して提供してまいります。

### (4) 在宅医療の推進

⇒ 高齢化に伴う在宅医療ニーズの高まりを受け、市立病院としての在宅医療支援を推進してまいります。

### (5) 医療人材の確保・育成

⇒ 医療需要に応え地域医療水準の維持・向上を図るため、引き続き、医師をはじめとした医療人材の継続的な確保・育成に努めてまいります。

### (6) IT化の推進

⇒ 市立病院間の連携や効率的に医療を提供するため、IT技術を活用した医療支援・医療連携について推進してまいります。

### (7) 経営健全化の推進

⇒ 安定的に病院事業を運営するため、引き続き経営健全化の取組を進めるとともに、取組状況について外部の学識経験者等による点検・評価を実施します。

### (8) 市民に優しい医療の提供

⇒ 病院モニター制度の運用やコンシェルジュの配置など、公立病院として、市民から信頼され、より安心して受診できる環境を整備してまいります。